

千葉県社保協通信

2022年度—No5 2022年 11月 8日号

〒260-0854 千葉市中央区長洲 1-10-8 自治体福祉センタービル3F

TEL : 043-225-6790 FAX : 043-221-0138 Eメール syaho2022@themis.ocn.ne.jp

いのち・暮らしを守る学習交流の集い

活かせ!! 憲法 軍拡ストップ!! 医療・介護 社会保障政策の大転換を

10月29日(土)午後、千葉県社保協は、地域医療と公立病院を守る千葉県民連絡会と共同で「いのち・暮らしを守る学習交流の集い」を開催。寺尾正之氏(日本医療総合研究所)が「全世代型社会保障改革と医療・介護のゆくえ」をテーマにwebで基調講演。

長引くコロナ禍の下での現場の実態を告発する発言が相次ぎ、住民の命とくらしの「地域の砦」としての医療・介護を守る取り組みを交流しました。

寺尾氏は「改革」の内容と問題点を詳しく説明。「自己責任や助け合いでは解決しないからこそ、社会保障の政策と制度がつくられてきた。社会保障を自己責任や家族・地域の助け合いに置き換えることは、公的責任を曖昧にすることになり、歴史的逆行である」。医療・介護は、住民の生活を支える「地域の砦」であり、いのちと生活を守るためには、新自由主義に固執する政治と政策を転換し、一人ひとりが尊重され、お互いを支え合う、多様で公正な社会をつくる、公正な政治を取り戻すことが不可欠と話しました。



メイン会場は千葉県自治体職員福祉センター。Webを含め14団体・11地域から40人が参加しました。

松本若菜氏(県民医連)、永島達哉氏(県医労連)は、介護現場の実態を発言。人手不足解消の力ぎは「賃金」と「人員配置」。「国の責任での処遇改善」「介護する人、受ける人がともに大切にされる制度への抜本的立て直しは待たなし」と訴えました。

宮崎博幸氏(県保険医協会)は、保険証で安心して受診できる国民皆保険制度を守るべきとし、「2024年秋に保険証を廃止めざす」方針の撤回を求める取り組みを発言。小林順一氏(匝瑳市民病院と地域医療を良くする会)、関智子氏(松戸社保協)が各々の地域の取り組みを報告しました。

閉会にあたり、長平弘氏(地域医療と公立病院を守る千葉県民連絡会)が行動提起。県に対し、保健・医療・福祉・介護体制の充実を求める要望項目をまとめ要請を行うことを確認しました。

10.22 コロナ災害を乗り越えるくらしと命を守る 何でも電話相談会

千葉労連会場

年金減額・物価高・くらし困窮・政治に怒り

12時~18時まで途切れることなく、当会場で過去最高の32件の電話相談が寄せられ、60歳以上の相談者が8割を占めました。全国32会場78回線で受けた相談。共通するのは、高齢世代の生活苦の広がり

です。以下、千葉労連会場に寄せられた事例の一部です。△「生活苦しく3食食べられない」(70代・女性)△年金減額許せない。旅行支援は金持ち優遇だ。公共料金値上げはきつい(81歳・女性)△年金が下がって苦しい。貯金を切り崩しこの先が心配。(89歳・男性)△物価高の影響大きく、苦しい。(69歳・男性)



●県社保協・消費税廃止県連絡会・憲法共同センター

頭にきてるのっ 保険証なくて マイナカードだなんて 年金からの介護保険料天引きひどい!

10月25日の定例宣伝で70代女性と対話。マイナカード導入に対して「とんでもないことだわ。政府に何もかも差し出すなんて」「13万円程の年金から介護保険で5000円以上引かれちゃう」などと怒り心頭。「どこかで署名してないかと思ってた。ホントにご苦労様」と怒りが止まらない様子。



「物価高騰は大きな負担。世界では99の国と地域が消費税にあたる付加価値税を引き下げている。年金は減らされ、75歳以上の医療費窓口負担は2倍に。「社会保障のため」というのは真っ赤なウソ!!」と訴え、改憲NO・消費税減税・介護改善署名等21筆。